



令和 5 年度病虫害発生予察注意報第 5 号

令和 5 年 9 月 2 5 日
埼玉県病虫害防除所

県内のシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年を上回っており、本年 8 月 1 5 日に注意報第 4 号を発表しましたが、その後も依然として多い状況が継続しています。9 月中旬のネギほ場における発生程度は平年比で「多」となっております。本年はダイズほ場においても葉の食害及び幼虫が多数確認されています。

本虫は野菜、花きを中心として 6 0 種類以上の作物を加害します。

老齢幼虫では、薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 ネギ、ブロッコリー、ダイズ
病虫害名 シロイチモジヨトウ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 注意報第 4 号の発表後も、フェロモントラップへの雄成虫誘殺数が平年を上回って推移している。(図:次項)
- (2) 9 月 2 1 日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう 1 か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 従来目立った加害を受けていなかったダイズほ場において、葉の食害及び幼虫が多数確認されている。
- (4) 9 月中旬のネギほ場(5 地域)の調査結果では平均すると 6 0. 4 %の株で幼虫が認められ、昨年(3 4. 4 %)を大きく上回っている。また、ブロッコリー等の他作物でも、定植間もないほ場で食害を受けると今後の生育に大きく影響することが懸念される。

3 防除対策等

- (1) 早期発見に努め、卵塊やふ化直後の 1 ～ 2 齢幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。

- (2) 幼虫が作物内に食入すると薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (3) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける(表1～3)。

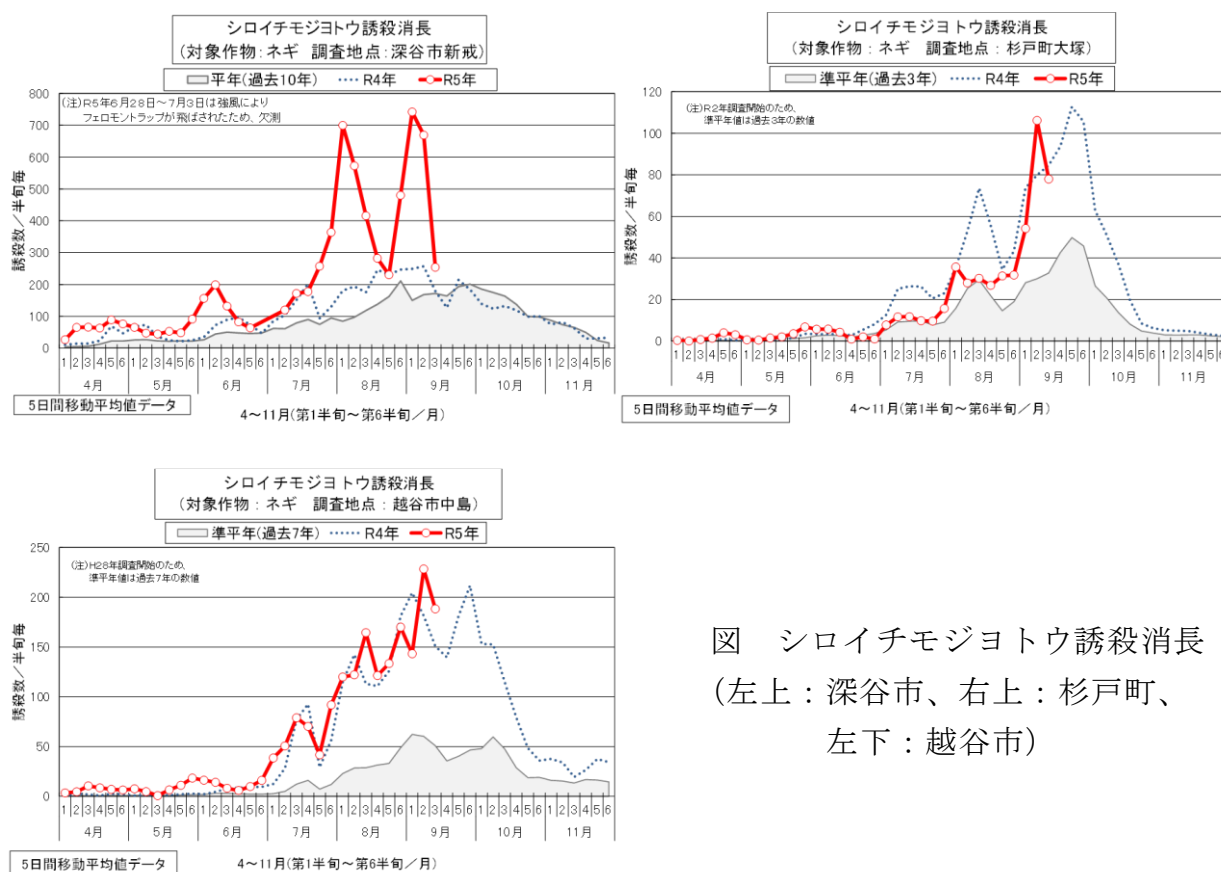


図 シロイチモジヨトウ誘殺消長
(左上:深谷市、右上:杉戸町、
左下:越谷市)



写真1 ブロッコリー葉を食害する
シロイチモジヨトウ老齢幼虫



写真2 ダイズ葉を食害する
シロイチモジヨトウ老齢幼虫

表1 ネギのシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
アディオン乳剤	3 A	収穫 7 日前まで	3 回以内
ディアナ S C	5	収穫前日まで	2 回以内
アニキ乳剤	6	収穫 3 日前まで	3 回以内
マッチ乳剤	1 5	収穫 7 日前まで	3 回以内
ロムダンフロアブル	1 8	収穫 7 日前まで	3 回以内
トルネードエース D F	2 2 A	収穫 1 4 日前まで	2 回以内
ミネクトデュオ粒剤	4 A、2 8	収穫 3 日前まで	3 回以内

(使用基準は令和 5 年 9 月 1 9 日現在)

表2 ブロッコリーにおけるシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
アフームエクセラ顆粒水和剤	6、1 5	収穫 7 日前まで	3 回以内
ジャックポット顆粒水和剤	1 1 A	発生初期 但し、収穫前日まで	—
ベネビア O D	2 8	収穫前日まで	3 回以内
グレースシア乳剤	3 0	収穫 7 日前まで	2 回以内

(使用基準は令和 5 年 9 月 1 9 日現在)

表3 ダイズにおけるシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
プレオフロアブル	U N	収穫 7 日前まで	2 回以内
デルフィン顆粒水和剤	1 1 A	発生初期 但し、収穫前日まで	—

(使用基準は令和 5 年 9 月 1 9 日現在)

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintouroku.jouhou.html>

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：0 4 8－5 3 9－0 6 6 1